

性の多様性をめぐるソーシャルワークにおける「交差性」概念の有用性  
－「抑圧」としての再考－

○ 明治学院大学 宮崎 理 (8539)

キーワード：性の多様性、交差性、抑圧

### 1. 研究目的

日本のソーシャルワークにおいて、「“LGBT” への支援」は、近年急速に議論が進みつつある 이슈の一つである。本研究は、性の多様性をめぐるソーシャルワークが、「“LGBT” への支援」として「多様性の尊重 (respect for diversities)」の文脈で論じられていることを批判的に考察するものである。

性の多様性が尊重される社会を実現するためには、社会変革が必要不可欠である。しかし、それはミクロな次元のソーシャルワーク実践と切り離されるものではないはずである。本報告では、具体的な個々の実践において、狭義の支援の方法や技術としてではなく、どのような視座を持って多様な性の人びとと社会的協働実践に取り組めば良いのであろうかという問題意識から、反抑圧ソーシャルワークで用いられて来た「交差性」概念の有用性を明らかにする。

### 2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。研究の視点として導入するのは、「交差性 (intersectionality)」の概念である。この概念は、ブラック・フェミニストのクレンショー (Crenshaw, Kimberle 1989) が、「黒人女性の経験」が「黒人の経験」とも「女性の経験」とも異なることを指摘し、抑圧が個人に重層的に加わることで、彼女らに固有の生活経験が構成されることを明らかにする際に用いられた概念である。ブラック・フェミニズムにおいて共有されてきた交差性概念は、反抑圧ソーシャルワークにも導入されてきた。

本報告では、多様な性の人びとを取り巻く問題を「抑圧」としてとらえ、実践場面において交差性概念を手がかりとすることの有用性について述べる。抑圧とは、反抑圧ソーシャルワークの著名な論者の一人であるベインズによるならば、「特定の集団に属していることを理由として、その個人（または集団）に対して人びとが行動したり、政策が不当に制定されたりした場合に生じる」ものである (Baines 2017: 3)。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理指針」を遵守したものである。

#### 4. 研究結果

社会変革を重視するときに、単一の社会構造のみに焦点が当てられたり、カテゴリー内部の同一性とカテゴリー外部との差異が不変的で絶対的なものとされがちな傾向にある。

シスジェンダーとヘテロセクシュアルが規範的な性のあり方であるとする社会において、そこから外れているとみなされてしまう人びととのソーシャルワークが、「“LGBT”への支援」という言葉で言い表されている現実は、このような問題の典型的な例である。

そもそもLとGとBとTが異なる状況に置かれているということが隠れてしまいがちになるという単純なことだけでなく、結果的に、あらかじめ“LGBT”とは誰かというドグマが作られ、性の規範が強化されてしまうおそれを孕んでいる。さらに、個々の実践の場において、支援を必要として立ち現れた人びとが、顔のある唯一無二の存在としてではなく、“LGBT”（あるいはその中のいずれか）として解釈されてしまいかねない。

ソーシャルワークの実践は、具体的な他者との社会的協働実践であり、その他者は固有の存在である。抑圧は構造的なものでありながらも、具体的な個人のレベルにおいては、複雑で個別性の強いものである。しかし、それは、単に個人のニーズがそれぞれに異なっているということではない。具体的な実践の次元において、交差性概念を導入することによって、個人的なものの次元においてこそ政治的なものが立ち現れていることを明らかにすることができる。それはミクロとマクロをつなぐということだけでなく、個別性を重視するというソーシャルワークが旧来より重視してきたことでもあり、個人的なものの政治性を見出そうとすることである。

#### 5. 考察

交差性概念は、多様な性の人びとに対する抑圧が、単一のカテゴリーではなく複数のカテゴリーが重なることによって生じることに焦点を当てるよう喚起する（だけの）ものではない。個別具体的な実践の場こそが、政治的なものであるということを明らかにするものであるという点においても有用性がある。さらに、そのことは、そもそもソーシャルワークにおける「政治」とは何かという問いを投げかけるものでもある。

文献

Baines, D. (2017) *Doing Anti-Oppressive Practice: Social Justice Social Work*: 3<sup>rd</sup> edition, Fernwood Publishing

Crenshaw, Kimberle (1989) Demarginalizing the Intersection of Race and Sex: A Black Feminist Critique of Antidiscrimination Doctrine, Feminist Theory and Antiracist Politics, *University of Chicago Legal Forum*: Vol. 1989: Iss.1, Article 8: 139-167

謝辞：本研究はJSPS 科研費 21K13462 の助成を受けたものである。